

2年目を迎えた十倉経団連は 政府との二人三脚で日本の未来を構築せよ

6月1日、経団連の十倉雅和会長はトップとして2年目を迎えるにあたり、新たに3分野の委員会を設置し、新体制をスタートさせました。

「クリエイティブ委員会」「バイオテクノロジー委員会」「モビリティ委員会」がそれで、ここから、岸田首相が標榜する「新しい資本主義」を背景に世界の競争原理に立ち向かっていくのではないかと期待します。これは十倉経団連が岸田政権と二人三脚で取り組んでいかなければ実現できない課題です。

すでに今夏、何回も「電力需給ひっ迫注意報」が出されています。東日本大震災で原子力発電所が停止し、火力発電所も多くが30年以上稼働していなかったために、様々な問題が出ていることも要因です。7月～8月の猛暑をどう乗り切るか。政府と一体となって国民の安心安全をどう確保していけるのかが大きな課題となっています。

さらに、今後は各分野の振興に注力し、3つの委員会をきちんと機能させていかなければなりません。

この20年間、日本の経済は円高とデフレに苦しみ、円高を背景に海外投資が伸びる一方で国内投資が伸び悩み、スタートアップやイノベーション分野での立ち遅れは深刻です。さらに少子高齢化を背景に労働生産性も伸び悩んでいます。

今こそ、医療、食糧、環境など、日本が欧米に立ち遅れてしまっている分野において、革新的な技術革新による問題解決を成し遂げていくことを期待しています。とくにバイオ分野における挽回には大きな期待を寄せています。

以前から申し上げているように、税と社会保障の一体改革をいかに推進し、現在の赤字財政体質を改善していかなければなりません。

十倉会長は経団連を「かつては重厚長大な集まりだった」とおっしゃいました。

新たなリーダーとして「モビリティ委員会」のトップに豊田章男氏を登用したのは素晴らしい英断だと思います。

経済界の要として、政府とは不可侵の立場を堅持しながら、一丸となって未来の日本を形作っていくことを期待しています。

本誌主幹 大中 吉一